

研究助成 研究成果報告書（HP掲載用）

研究課題名：職業会計士による監査モデルを援用した食品表示マークの批判的分析

所属大学・機関名：北海道大学 氏名：岡野泰樹

【研究要旨】（研究要旨を200～300文字程度でご記入ください。）

本研究は、食品表示マークが担う食の安全・信頼保証という役割の重要性の高まりを背景に、職業会計士による監査モデルを援用することで、食品表示マークの有する保証の特徴・課題と、消費者が実際に認識している食品表示マークによる食品（表示）への信頼向上効果を検討するものである。検討の結果、現在普及している食品表示マークの特徴・課題として、食品表示マークを付与する主体の独立性の程度や評価規準の統一の度合いが、マークごとに様々であることが確認されるとともに、より独立性の高い主体がより客観的な評価規準によって定量的な性質の食品表示に対して付与した食品表示マークは、より高い信頼向上をもたらすと消費者に認識されていることが明らかにされた。

【研究目的】

本研究は、①職業会計士による監査モデルから導かれる実効性ある保証を提供するための条件、改善点を抽出するための確立した視点から、食品表示マークを理論的に検討することで食品表示マークの有する保証の特徴・課題を明らかにすること、②①の検討も踏まえ、実際に食品表示マークにより、食品（表示）に対する消費者の信頼が向上するのか、信頼の向上にどのような要素が影響するのかという、食品表示マークに対する消費者の認識を明らかにすること、を目的とする。これにより、より実効性ある保証を消費者に提供する食品表示マークを今後開発するための知見を得ることを企図している。

【研究方法】

食品表示マークの有する保証の特徴・課題を明らかにするという①の目的達成に向けて、まず、国内外の文献研究を通して、職業会計士による監査モデルをもとに監査・保証対象に対して実効性ある保証を提供するための条件、改善点を抽出するための視点を整理する。その上で、当該条件・視点から、食品表示マークを分析し、その特徴・課題を抽出する。次に、実際に食品表示マークの存在によって、食品（表示）に対する消費者の信頼が向上するのか、消費者の認識を明らかにするという②の目的達成に向けて、消費者に対するアンケート調査を実施する。当該アンケート調査の質問項目は、職業会計士による監査モデル及び①の目的達成の過程で確認された食品表示マークの特徴・課題を反映させて設計される。

【研究結果】

食品表示マークの有する保証の特徴・課題として、現在普及している食品表示マークは、マークを付与する主体が、マークを付与される食品を製造している組織から独立している程度や、マークを付与するか否かを判断するための規準（評価規準）の統一の度合いが、マークごとに様々であり、保証の実効性もそれに応じて多様なものとなることが確認された。これらの結果も考慮し実施された消費者に対するアンケート調査では、食品表示マークが存在することで食品（表示）への信頼が向上すると消費者に認識されていること、とくに、食品表示マークが付与される食品を製造している組織から独立した外部組織のような、より独立性の高い主体が、より客観的な評価規準によって定量的な性質の食品表示に対して付与した食品表示マークは、より高い信頼向上をもたらすと消費者に認識されていることが明らかにされた。

【考察】

より独立性の高い主体がより客観的な評価規準によって定量的な性質の食品表示に対して付与した食品表示マークは、より高い信頼向上をもたらすという消費者の認識は、本研究で基礎とした職業会計士による監査モデルに関する先行研究に照らすと妥当なものであるといえることができる。ただし、全ての食品表示マークにそのような高い信頼をもたらす保証を提供することが求められるわけではない。食品表示マーク付与の仕組みを設計する際には、コスト効果の観点からも、食品表示マークが付与される対象の重要性、当該対象に虚偽の表示や脱漏があった場合に人や社会に与える影響に見合った保証が提供されるよう留意する必要がある。

【結論】

食品表示マークを付与する主体の独立性の程度や評価規準の性質は様々であるものの、消費者は食品表示マークの存在によって、食品（表示）への信頼が向上すると認識している。こうした信頼は、食品表示マークを付与する主体の独立性や評価規準、食品表示マークが付与される対象の客観性を高めることでより向上するが、コスト効果の観点から、食品表示マークが付与される対象の重要性に見合った保証を提供する食品表示マーク付与の仕組みが検討される必要がある。